



# 令和五年度 校内研究

## 研究主題

子どもの「面白い！」を  
引き出す授業

## 研究の目的

各教科・領域の学習において、児童の  
「面白い！」を引き出すための指導方法  
を探る。

## 研究の視点

視点①  
問いの工夫

視点②  
学び合いの場の工夫



授業動画・写真公開中！

2024年3月1日(金)～5月31日(金)迄

※ ご質問がありましたら、下記連絡先までお願いします。

## 鴨川市立田原小学校

令和6年度 創立150周年記念事業開催

お問い合わせ先：04-7092-0675

住所：千葉県鴨川市坂東 285

<https://www.city.kamogawa.lg.jp/site/school/1169.html>

子どもが夢中になって学んでいると「よしよし！」と嬉しくなります。逆に、首をかじげてつまらなそうにしていると「ここをこうしてみようかな。」と次の手立てを考えます。子どもの「面白い！」を追究していると、私たちは様々なことに気がきます。その気がさがらなる「面白い！」を引き出すことに結び付くのでしょうか。



校長

# 令和5年度 校内研究計画

## 1 研究主題

子供の「面白い！」を引き出す授業

## 2 主題設定の理由

### (1) 昨年度の課題から

昨年度の校内研究「子供の「面白い！」を引き出す授業」では、特定の教科・領域の学習に限定せず、子供の「面白い！」を引き出すための指導方法について研究することができた。「自ら学びに向かう」という、子供の主体性を高めるため、①自己決定の場の保障、②学び合いの場の保障、③学んだことを活用する場の設定、の3つの視点をもって研究に取り組んできた。

成果としては、「振り返りの場を保障したことで、その時間に学んだことが整理され、次の学習の課題につなげることができた」「学び合いの場の保障をしたことで、子供が視野を広げたり、考えを深めたりすることができた」ということが挙げられる。

一方、

- ・自分の考えをもてず、自己決定できない子供もいる。自己決定まで至らない子供にどうアプローチしたらよいか、指導法を研究していく必要がある。(視点①)
- ・自力解決の時間が長いと自分の中で完結してしまい、話し合う必要感が生まれない。自力解決の時間は短く、活動の途中であっても良い。疑問もみんなでも共有することで話し合う必要感が生まれるはずである。(視点②)
- ・教科の系統性を理解することや教科横断的な視点をもったうえで、学んだことをどのように活用させたらよいかを検討していく必要がある。(視点③)

ということが課題として残った。

これらの課題を追究していく必要がある。

### (2) めざす学校像とのかかわり

本校では、「夢と思いやりの心もち、チャレンジする田原っ子」を目標に掲げ、「かしこい子」「明るい子」「たくましい子」の育成を目指している。「かしこい子」で目指す「①よく考え表現する子、②自ら学び続ける子、③仲間と学び合う子」を育成するためには、自ら課題を見つけ、積極的に学ぼうとする姿や学んだことを生かそうとする姿、仲間と協働して考えを生み出す姿が大切である。

本校が今年度めざす学校像は「夢につながる学校」である。将来のために、学校で学ぶ意味や必要性をもって学ぶことは、主体的に学ぶことにつながる。学ぶ面白さを感じて学習に取り組むことは、めざす学校像の実現につながるものである。

### (3) 子供の実態から

本校の子供は、学習に前向きに取り組んでいる。ドリル学習やプリント学習などの与えられた学習(反復学習)に対して意欲的に取り組む子供が多い。それにより、計算や漢字の基礎的な知識や技能については定着してきている。また、少人数なので、一人一人が活躍できる機会に恵まれている。一方で、「自分の言葉で表現することが苦手、自信がない」「一部の子供の意見だけで学習が進みがち」「今ま

で身に付けた知識・技能を活かして解くことが苦手」「個々の発表だけにとどまってしまい、話し合いに深まりがみられない」などの実態がある。

これらのことから、今年度は引き続き「子供の『面白い！』を引き出す授業」を主題として、研究に取り組むこととする。

### 3 研究の目的

○各教科・領域の学習において、子供の「面白い！」を引き出すための指導方法を探る。

### 4 めざす子供の姿

本校では「面白い」と感じている子供の姿を3ページの図のように設定した。

### 5 研究の視点について

#### 視点① 問いの工夫

昨年度は、「自己決定の場の保障」を視点としたが、「自分の考えをもてず、自己決定できない子供もいる」という課題が残った。子供の実態からも「自分の言葉で表現することが苦手、自信がない」という課題が挙げられた。自己決定まで至らない子供や自分の言葉で表現することに抵抗がある子供にどうアプローチしたらよいか考え、「問いの工夫」という視点を設定することとした。問いを工夫することにより、自分の考えを表現するきっかけとしたり、考えを深めたりすることができるようにする。

例えば、自分の考えがもてない、自信がないという子供には「できそう」「わかるかも」と思わせる発問をする、「本当にそうなの？」という思考を揺さぶるような切り返しの発問をする、などという手立てが考えられる。

#### 視点② 学び合いの場の工夫

昨年度は、「学び合いの場の保障」を視点としたが、場を保障したものの、友達の意見を踏まえて考えたり意見を述べたりすることは、難しかった。ただ、学び合いの場を保障するだけでは、思考に広がりや深まりがみられるまでには至らなかった。子供の実態からも、「一部の子供の意見だけで学習が進みがち」「個々の発表だけにとどまってしまい、話し合いに深まりがみられない」という課題がみられた。子供たちの必要感に応じて設定できるような指導の工夫が必要である。

例えば、学習形態を変える（人数を変える、ペア、小グループ）、話型の提示、意見交換の進め方の提示、意図的なグループ編成（同質、異質）などという手立てが考えられる。

### 6 研究の方法

- ・子供が、「面白い！」を感じて学習している姿を【めざす子供の姿】をよりどころとして見取る。
- ・研究授業（年3回）を行い、手立ての有効性について検証する。
- ・外部講師を招いたり先行研究を参考にしたりして、手立ての有効性について論理的に学ぶ。





【主な参考文献】

- 1) 文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編』，東京：東洋館出版社，2018 年
- 2) 第 127 回中央教育審議会『『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～すべての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～（答申）（中教審第 228 号）』2021 年






## II 授業の実践例

実際の授業の様子（写真）



### ◆研究の授業実践例 ～第6学年～（特別の教科 道徳）◆

- (1) 主題名 寛容な心（内容項目 B 相互理解、寛容） 資料名「ブランコ乗りとピエロ」  
 (2) ねらい 自分と相手との見方や考え方に相違があっても、相手の立場に立ち、謙虚に受け止め、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重しようとする態度を育てる。

過程 (時配)	学習活動 ○ <u>主な発問</u> (◎ <u>中心発問</u> )	教師の働きかけと児童の反応(・)評価(☆)
導入 (5) 展開 (32)	<p>1 自分の今までの経験についてふりかえる。</p> <p>2 本時の課題をつかむ。</p> <p>自分とは違う考え方をする相手と、お互いにわかりあうことは、なぜ必要なのか。</p> <p>3 教材「ブランコ乗りとピエロ」の範読を聞きながら、話し合う。</p> <p>◎もし、あなたがピエロや団員たちだったら、サムを許せますか。許せませんか。また、それはなぜでしょう。</p>   <p>○あんなに腹を立てていたのに、ピエロがこんなことを話したのはどうしてでしょう。</p> <p>○ピエロとサムは、朝までどんなことを話していたのでしょうか。</p> 	<p>・自分を見つめなおすきっかけとなる問いかけで子供たちの意見をたくさん引き出せたが、導入部分が長くなってしまった。主発問で充実した話し合いにするために、よりコンパクトな導入が望ましい。</p> <p>◎本時の「面白い！」ポイント（視点①）</p> <p>・「許せる」か「許せないか」という二者択一の発問をしたことで、一人一人が立場を明確にして考え、ワークシートに記入していた。この後の意見交換では、全員が自分の考えを発表することができた。</p> <p>・ネームプレートを活用したことで、一人一人の立場が明確にすることができた。</p> <p>・立場を明確にし、その理由をはっきりさせたことで、話し合いが活発になった。自分とは違う意見についてどうして違う考えなのか、理由に着目させたことで、意見交換に留まらず、友達の意見につけたしたり、反対意見や質問などをしたりしていた。</p> <p>・友達の意見に対して、「確かに」「ああ、なるほど」など、つぶやいたりうなずいたりして反応していた。</p> <p>・活発に意見交換できていたので、子供たち同士で意見をつないでいけると、さらに考えを深めたり、新たな考えが生まれたりすると考える。</p> <p>・自由なペア対話を取り入れたことで、自分以外の多様な意見にふれ、友達の考えを取り入れ、自分の考え詳しくする姿が見られた。思わずつぶやいている姿もあった。</p> <p>・言語化するのが苦手な子供は、友達の意見を参考にし、ワークシートに記入している姿も見られた。</p> <p>・最後に学習問題にもどる発問をし、改めて考えさせると良かった。</p> <p>・導入が長かったため、自分事として考える時間（ふりかえり）をもっと確保できると良かった。</p>
終末 (8)	<p>4 各自、教材文を読んで学習をふり返り、気付いたことや学んだことをワークシートに書く。</p>  	<p>☆自分と異なる意見や立場を尊重することの大切さについて、考えを深めているか。</p>









◆研究の授業実践例 ～第4学年～（総合的な学習の時間）◆

(1) 単元名 川代の棚田プロジェクト—すべては田原のために—

(2) ねらい 課題解決の方法について、自他の意見を結び付けながら考えることができる。

時配	学習活動	教師の働きかけと児童の反応（・） 評価（☆）
導入 5分	1. 本時のめあてを確認する。  <div data-bbox="432 320 1139 432" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     ゲストティーチャーのアドバイスを生かして、計画をよりよく見直そう。                 </div>	
展開 30分	2. アドバイスを振り返り、個人で改善策を考える。（付箋を使用）  	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲストティーチャーのアドバイス（横造紙にまとめたもの）を見える場所に置いておいた。それを抛り所としながら改善策を考えることができた。</li> <li>・ブレインストーミングを活用しながら改善策を考える場を設けた。児童ひとりひとりが自分の考えをもつことができた。</li> </ul>
	3. 部門内で改善策を共有し、より良いものを絞り込む。  	<p>◎本時で引き出したい「面白い！」ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・改善策の内容をひとつずつ発表する場を設けた。自分の考えだけではなく、友達の考えにも目を向けながら、話し合いに臨むことができた。</li> <li>・ピラミッドチャートを活用し、「自分たちの思い」と「地域の思い」に沿った改善策に絞り込む場を設けた。児童は、根拠を明確にして話し、自分と違う考えに対して具体的に指摘したり、折り合う考えを探ったりして、個人の考えを全体の考えへと高めていくことができた。また、最後まで集中力を切らさずに、友達と夢中になって話し合いを続けていた。</li> <li>・ピラミッドチャートは、考えを焦点化していくイメージが強いため、初めから考えが限定されているグループや新しい考えを提案することに消極的になっている児童が数名いた。</li> </ul>
	4. 自分たちの計画を見直す。  	<p>☆自他の意見を結び付けながら考えている。</p>
まとめ 5分	5. 部門ごとに計画に変更点や方向性を発表する。  	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画の変更点や方向性を考え、ピラミッドチャートに文章で記載する場を設けた。個人の考えを焦点化し、全体の考えとして文章で記載したことで、今後の目標ややるべき内容が明確化した。</li> <li>・計画の変更点や方向性を会社全体で共有する時間を確保した。今後の見通しをもつことができた。</li> </ul>
5分	6. 本時のまとめをして、総合日記を書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学びを自覚したり、次時への意欲を高めたりするための時間を確保した。「みんなで協力してがんばりたい。」や「川代の棚田のために、活動を続けていきたい。」等の感想が挙げられた。</li> </ul>




◆研究の授業実践例 ～第5学年～（体育科）◆

(1) 単元名 ボール運動「ゴール型・シートバスケットボール」

(2) ねらい みんなが活躍でき、みんなが楽しめるようなルールを考えることができる。

【思考力・判断力・表現力等】

過程 (時配)	学習活動	教師の働きかけと児童の反応、評価（☆）
導入 (10)	1 整列，挨拶，準備運動をする。 2 チームでドリルゲームをする。 ・ゴール下シュート ・パスまわし ・2対1（ドリブルやパス） 	<ul style="list-style-type: none"> <li>得意な児童が、チームの子にシュートの打ち方や狙う位置などの声掛けをすることができた。</li> <li>単元の初めから、ドリルゲームを続けてきたことで、個人の技能が向上し、シュートが入らなかった児童が入るようになった。</li> </ul>
展開 (8)	3 学習のめあてを確認する。 みんなが活躍し、楽しめるようなルールにするには、どうしたらよいだろう。 4 ルールについて話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎本時の「面白い！」ポイント（視点②）</li> <li>前時にゲームを行った際に、反則を厳しく取らなかったため、「ルールを変更したい」という必要感が子供たちになかった。そのため、案は出たものの活発な話し合いにはならなかった。</li> <li>ゲーム後に、新たに設定したルールがどうだったか話し合いの場を設けた。特に新しく変更したいという考えは出なかった。みんなが「活躍する」「楽しめる」という視点での話し合いが十分ではなかったと考えられる。</li> </ul>
(20)	5 ゲームをする。(2ゲーム) ・1ゲーム5分(2分30秒ハーフ) ・シート2枚 ・シュートが決まったら2点  	<ul style="list-style-type: none"> <li>「苦手な人が3点」というルールであったため、苦手な人の基準が曖昧になってしまった。</li> <li>全員がシュートを入れたら大量得点につながるため、全員が活躍できるようにパスを回して、シュートを打つことができた。</li> </ul>
まとめ (7)	6 本時の振り返りをする。 苦手な人でも楽しめるように、ゲームをしながらルールを見直していくとよい。 ・2回のゲームを振り返り、学習カードに反省を記入する。 ・次回のルールについて話し合う。 7 整理運動・挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆みんなが「活躍する」「楽しめる」の視点からルールを考えることができたか。</li> <li>・本時に2回行ったゲームのルールがどうだったか、新たに追加したいルールがあるかグループごとに話し合い、全体で共有することができた。</li> </ul>

### Ⅲ 成果と課題

#### ◆研究の成果と課題◆ (成果○ 課題▲)

##### 【視点① 問いの工夫】

- 「かたかなで書く言葉には何がある?」「動物の名前を集めよう」というように、答えがたくさんある、そして何があるか考えられるような発問は多様な意見を引き出すために有効であった。
- 自分の立場を明確にする発問をしたことで、そのわけを考えさせることが「自分の考えをもって取り組む姿」につながった。「立場をきめる」活動はめざす子供の姿を表出させやすいことがわかった。
- 前時と本時の違いに着目するよう発問することで、学習問題を解決するための手がかりとなる考えを引き出すことができた。
- 個別指導できるメリット(学びの保障)を生かし、「こうやればいいんだね、わかった」というつぶやきや「休み時間にもやっていいですか」という夢中な姿は生み出しやすい。「基礎基本」を「活用」に発展させるのは厳しい実態があるが、身近な日常場面や算数的活動と繋ぐと理解が進みやすいことがわかった。(特別支援)
- ▲既習事項から共通点や相違点を見出し、本時の課題に対しての解決方法を自力で行うための起爆剤になるような「主発問」を、じっくり考えさせたいうで行う必要がある。
- ▲自分の考えをしっかりとって、思考し、判断し、表現できるような子供を育てていくために、既習を活用し本時の課題を明確にとらえられるような効果的な「問い」について、今後も試行錯誤していく必要がある。

##### 【視点② 学び合いの場の工夫】

- スキルの高さや興味関心の有無、等質のグループ分け、一斉または個別など多様な視点や価値観で、課題に迫ることができるような手立てをとって学習を展開していくことが必要であることを再確認することができた。
- 子供たちの気づき(面白い!)を生かして学習を進めたことで、「全校やこども園の友達に音読劇を発表する」という学習へ発展した。そこから、音読の仕方をさらに工夫したり、発表会の準備を進めたりするなど、学習活動を深めたり発展させたりすることができた。
- ブレインストーミングやKJ法、ピラミッドチャートなどの思考ツールを目的に合わせ、効果的に活用したことで、学び合いが活性化した。「自分と友達の意見を比べている」「話し合いが続いている」等、めざす姿が見られた。
- 根拠を明確にして話すよう指導してきたことで、自分と違う考えを理解しようとしたたり、折り合いをつけたりしながら、考えを広げたり深めたりすることができた。
- 小グループでの話し合いを意図的に取り入れることで、子供たちは自分と友達の考えを比べることができた。
- スピーチコーナーを設定し、「○ちゃん」でなく「姉」「私」、「ママ」でなく「お母さん・母」を、発表者への質問や回答を奨励した。相手の話を大事に、想像しながら聞くことができるようになってきた。(特別支援)
- 異学年が同じ土俵で学べる週1コマ(自立活動・生活単元学習)は、話し合いや作業場面を設定した。個の意見を拾いながら、他者と比較させたり自己選択させたりすることができた。(特別支援)
- 道徳の授業でNHK for Schoolを活用した。「やらないよ。だって、怒られるから」「僕も前、こんなことがあって…」と、一人ひとりが様々なエピソードを発表し、規則や決められたことを守る価値について考える姿が見られた。
- ▲「学び合いの場の工夫」には、視点①の「問いの工夫」が大きく影響する。学び合いを充実させるためには、教師の発問や切り返しの言葉が重要である。
- ▲話し合いについて「視点」や「条件」を与えることで、話し合うことに必要感が生まれる。子供の実態や学習内容を吟味した「視点」や「条件」を設定することが重要である。

##### 【提言】

- ・子供たちがじっくり考え、夢中になって話し合えるような発問をしよう。
- ・学び合いを活性化させるために、学習形態を工夫したり、目的に合わせて思考ツールを活用したりしよう。

#### ◆研究同人◆ 研究主任◎

前田 桂子	川名 直樹	辰馬 基倫	亀田 貴子	坂本 康臣	森 康	杉木 澄
阿部 由稀	◎鈴木 信太郎	鈴木 香	中田 安見児	鈴木 裕子	青木 三七浩	